

不登校対応加配教員を活用した対応について

不登校児童・生徒の状況

当該生徒は、中学校2年生であり、中学校1年の2学期半ばから3学期末まで、不登校状態が継続していた。不登校の要因の一つとして、友人関係のトラブルがあり、様々な不安を感じ、登校することができなくなりました。

具体的な取組

加配教員連絡協議会及び都不登校対策担当主催研究会の参加

定期的に行われる協議会に参加し、学びの多様な学校（不登校特例校）や加配校の取り組み、フリースクールの実践について、自校で実践できることを整理して、共有した。また、不登校特例校（福生第一中学校7組）を見学し、不登校支援の好事例を自校に還元した。

実践の成果等についての普及・啓発

明るく楽しい学校づくりを推進するため、中央委員会を中心に各委員会で行い（楽しい放送、3年生へのメッセージ作成、笑顔あふれる幸せの樹など）を企画した。さらに、校則の見直し、新校舎の使い方等、生徒の視点で考察させ、登校したくなる環境を整えることができた。

校内体制の強化

不登校委員会（担当4人）を月に1度開催し、アセスメントに基づき作成した共有シートを全教職員で共有し、進捗状況に応じて学級担任等に助言するなど、アセスメントに重点を置いた体制を築いた。また、校内別室では加配教員が4校時（生徒が登校しやすい時間帯）に支援できるよう時間割を調整した。

個々の不登校生徒への支援

当該生徒との関わり方においては、不登校担当教員や学年担当教員、養護教諭、部活動顧問等が共有シートを確認し、共通した対応ができるようにした。また、当該生徒と仲の良い生徒が当該生徒の家庭を訪問し、配布物を届けたり直接声をかけたりするなどの支援をしたことで、当該生徒の登校への不安感が軽減した。

成果

チーム支援を継続した結果、当該生徒に、部活動参加や友達と関わりたい気持ちが芽生え、通常どおり教室で授業を受けることができるようになった。



課題

感情のコントロールやコミュニケーション能力向上等、課題に対して自ら解決していく力を身に付けられるよう支援をしていく。